

## 援農ボラに期待 研修講座が閉講

神奈川・

J A相模原市

【神奈川・相模原】

J A相模原市営農経済部は2月中旬、相模原市緑区の同J A営農センターで農業研修講座の閉講式を開いた。3年間に及ぶ全ての研修を終えた受講生7人のうち6人が、同J Aの井上博史常務から修了

証書を受け取った。

同講座は1995年、農家の後継者不足を解消するために相模原市と連携して始めた。初心者を対象に1年間で野菜栽培の基礎を学ぶビギナーコースと、同コースの修了者を対象に2年間で出荷や販売などの実践的な知識を学ぶサポートコースで構成する。

ほとんどの修了者は



修了証書を受け取る受講生（神奈川県相模原市で）

NPO法人援農さがみはらに登録。現在78人が援農ボランティアとして管内農家の下で活躍している。

農家からは「援農ボランティアを受け入れ、人手が増えたことで規模拡大につながった」と喜ばれている。

井上常務は「頑張っている農家をサポートするのが援農ボランティアの大きな役割。講座で得た知識を生かして市内農業を盛り上げてほしい」と話した。

受講生の春山祥子さん（41）は「3年間の研修を通して農業の大変さを感じた。今後は援農ボランティアとして経験を積み、相模原の農業を支える力になりたい」と話した。